

26億円の防災無線工事契約で論戦 能登半島地震の初動体制でも

市議会総務常任委員会では12日、13日と議案審査が行われました。

防災危機管理部関係の審査では、特殊詐欺の実態と今後の対策強化についてまず質問しました。上越警察署管内では昨年度、「おれおれ詐欺」などの特殊詐欺件数は26件、被害額は9825万円にもなっています。電話に録音装置をつけるなど実効性のある対策をもっと強化する必要があります。

能登半島地震は今年の元旦発生ですが、年度的には昨年度になり、昨年度決算審査の重要な対象の1つと



なりました。初動、津波、地震の実態、課題などについて委員から質問が相次ぎました。私からは初動体制、とくに地震発生後の災害対策本部の運営と市長の果たす役割について、「対策本部で先頭に立つ市長の姿が見える見えないは大きい。一時も早く登庁すべきだった」と質問を展開しました。地震後、市長が登庁したのは翌日の午前10時頃でした。

もうひとつ、執行部と激しいやりとりとなったのは、防災行政情報伝達システム整備・機能強化等工事の請負契約です。これは随意契約（公募型プロポーザル方式）で、日立国際電気・東光クリエート特定共同企業体が約26億円で仕事をすると示されました。しかし、事業者選定公募型プロポーザルの審査結果では、契約予定のこの特定共同企業体ともう一つの特定共同企業体の評価は244点（最高点数360点）と229点であり、その差はわずか14点でした。9人の選定委員の評価も5対4と極めて接近していたことから、審査項目ごとの点数の明細を明らかにするよう迫りました。

この結果は翌日の委員会で明らかにされました。書類審査では「本店などの所在地」「施工実績」「配置予定技術者の実績」でA特定共同企業体とB特定共同企業体で大きな差がついていましたが、最終審査（プレゼンテーション）では接近した点数になっていました。まさにどちらが契約候補になっても不思議ではな



い微妙な審査結果でした。なお、この契約案件は最終的に全会一致で可決しました。

隊員が居住する家の改修 思い切った補助を要求

総合政策部関係の審査では、地域おこし協力隊が果たしている役割、サポート体制の強化について質問しました。特に協力隊員が居住する空き家の改修経費の補助については、3年経過後も居住してもらえないように思い切った補助が必要であることにトイレ改修（合併浄化処理槽設置）を例に訴えました。これには他の委員も同調、任期終了後に残ってもらえるような補助のレベルアップが必要であること、県への働きかけの強化などを訴えていました。



今春、吉川区にて4羽のヒナを育てたコウノトリの母親。16日、町田の池にて撮影。

藤野保史前衆院議員迎え学習決起集会



14日、日本共産党の藤野保史前衆院議員（衆院北陸信越ブロック比例候補）を迎え、学習決起集会を市内で開催しました。

能登半島地震被害現場にたびたび訪問されているだけに藤野さんの話は具体的で、わかりやすかったです。地震直後にモニタリングがいくつも機能しなくなったこと、道路が寸断され避難できなくなったこと、安定ヨウ素剤もまともに配布できない事態となったことなどをパワーポイントで説明してもらいました。

いま岸田内閣が柏崎刈羽原発を再稼働させようとしていることの無謀さが浮き彫りになりました。

【コマツナギ】 マメ科の被子植物。漢字では「駒繫」。草のように見えますが、小型低木です。ハギと似ているものの、花の形が違います。丈は60㍉～90㍉。日当たりのいい道端などにあります。馬はこの葉が好物とか。花期は7月から9月。花言葉は「独立」「誠実」。11日、吉川区代石にて撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2172 2024.9.22
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のいかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八一九回 つながり

先日、大島区旭地区へ行ったときの帰り道、儀明トンネル入り口近くのT字路で車のハンドルを右に切りました。ふと、儀明のKさん宅に行きたくなったのです。

Kさん宅は私の母と同級生のおばあちゃん（故人）が住んでいた家でした。旧旭小学校で一緒に学んだだけでなく、普段から行き来する仲良かったことから、母にせがまれて何度も車に乗せて訪ねていました。そこでは、母の子ども時代、ワラ布団と一緒に寝て遊んだことなどの思い出を覚えてもらっていました。

母が亡くなる数年前が最後の訪問で、その後はすっかりご無沙汰していました。なぜ急にKさん宅へ行きたくなったのか。私自身もよくわからないのですが、母の三回忌を前に、何か母についての新しい情報を知りたくなったのかも知れません。

訪ねた時間は午後四時を過ぎ、いくぶん涼しくなっていましたから、畑仕事に出ておられるかと思いましたが、娘さんのT子さんは幸運にも在宅でした。私の顔を見るなり、「まあ、橋爪さん、お久しぶりです。どうぞ入ってください」と勧められました。

T子さんからは「いつも頑張っているじゃないですか」と言われましたが、おそろしくコウノトリの観察のことを新聞でご覧になっていたのだと思います。

お茶を飲み始めてからの話題の中心はお互いの母親のことです。T子さんのお母さんは七年前の一月に急に亡くなっていました。その事実は前回の訪問で聞いていたのですが、亡くなった最後の状況は今回の訪問で初めて知りました。正月の二日、最愛の孫さんたちがいた時に誤嚥性肺炎を起こし、救急車で病院に運んでもらったもの間に合わなかったというのです。

私からは、二年前の九月、母を自宅で看取るために退院させてもらい、お医者さん

や看護師さん、介護士さんなどから助けられたこと、新型コロナの影響もあったけれど、自宅に戻った日から数日間、母が会いたいと思っていた多くの人たちと会えたことなどを詳しくお話しました。

うれしかったのは、この日の訪問でこれまで知らなかったことをいくつも聞いたことです。一番の情報はKさん宅のおばあちゃんの出身集落についてです。これまで、旭地区の竹平の生まれだと思っていたのですが、そうではなく、足谷の隣の入場（にゅうば）だったのです。入場だと聞いてすぐ、「それじゃ冬になれば、旭の学校には家から通えないすけ、竹平のどこかに泊めてもらいながらだろね」と訊くと、「たぶん、そうだと思います」という答えが返ってきました。母が竹平の「下」（した。屋号）から吉川区の源地区に嫁いだ人たちと仲良かったことから考えると、その家は「下」だったのかも知れません。いまJAえちご上越の幹部として活躍している山岸さんも入場出身で、しかもKさん宅のおばあちゃんの実家だということも初めて知りました。

それだけでも驚き、うれしかったのですが、長年にわたりお世話になった直江津は五智在住だった元教員のKさん（故人）もKさん宅とは親戚でした。さらに私の友人である松之山のTさんともつながっていました。本当に世間は狭いと思いました。

T子さんは現在七十代後半です。私とは母親繋がりで、長年付き合いをさせてもらっていたのですが、今回の訪問のなかで、双方がいろんなルートでつながっていることを確認できました。

延長約二キロの儀明峠トンネルを境に行政区は区分されています。こんなにつながっているとは……。今回は母の三回忌法要が終わったら訪ねようと思います。

「手しごと、手づくり柿崎・上越作品展」、今年も賑やか

柿崎区の浄福寺で開催された「手しごと、手づくり柿崎・上越作品展」に行ってきました。

毎回楽しみにしているこの作品展、今回もパッチワーク、竹細工など素敵な作品が並びました。コミュニティバンド・ピアスの山崎伸さんがカフオンやケーナなどの楽器を出展しているのにはびっくりしました。この人の器用さははんばじゃないですね。随想シリーズ「春よ来い」に書かされたもらった板倉区のSさんなど、何人もの人



から声をかけていただきました。ありがとうございました。イラストはパッチワークコーナーです。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月11日(水)	9月18日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.060	0.057
高士分遣所	0.050	0.053

「写友かたくり写真展」は2年ぶり

小川未明文学館ギャラリーで開催されていた「写友かたくり写真展」にも行ってきました。

蓮の花の瞬間の表情を撮ったもの、田んぼの畔に接近して、そこに「小さな山脈」の風景を発見した映像など興味深い作品がいくつもありました。力作ぞろいでしたね。



春よ来い

第八一九回 つながり

先日、大島区旭地区へ行ったときの帰り道、儀明トンネル入り口近くのT字路で車のハンドルを右に切りました。ふと、儀明のKさん宅に行きたくなったのです。

Kさん宅は私の母と同級生のおばあちゃん(故人)が住んでいた家でした。旧旭小学校で一緒に学んだだけでなく、普段から行き来する仲良しだったことから、母にせがまれて何度も車に乗せて訪ねていました。そこでは、母の子ども時代、ワラ布団と一緒に寝て遊んだことなどの思い出を教えてもらっていました。

母が亡くなる数年前が最後の訪問で、その後はすっかりご無沙汰していました。なぜ急にKさん宅へ行きたくなったのか。私自身もよくわからないのですが、母の三回忌を前に、何か母についての新しい情報を知りたくなったのかも知れません。

訪ねた時間は午後四時を過ぎ、いくぶん涼しくなっていましたから、畑仕事に出ておられるかと思いましたが、娘さんのT子さんは幸運にも在宅でした。私の顔を見るなり、「まあ、橋爪さん、お久しぶりですね。どうぞ入ってください」と勧められました。

T子さんからは「いつも頑張っているじゃないですか」と言われましたが、おそろしくコウノトリの観察のことを新聞でご覧になっていたのだと思います。

お茶を飲み始めてからの話題の中心はお互いの母親のことです。T子さんのお母さんは七年前の一月に急に亡くなっていました。その事実は前回の訪問で聞いていたのですが、亡くなった最後の状況は今回の訪問で初めて知りました。正月の二日、最愛の孫さんたちがいた時に誤嚥性肺炎を起こし、救急車で病院に運んでもらったもの間に合わなかったというのです。

私からは、二年前の九月、母を自宅で看取るために退院させてもらい、お医者さん

や看護師さん、介護士さんなどから助けももらったこと、新型コロナの影響もあったけれど、自宅に戻った日から数日間、母が会いたいと思っていた多くの人たちと会えたことなどを詳しくお話しました。

うれしかったのは、この日の訪問でこれまで知らなかったことをいくつも聞いたことです。一番の情報はKさん宅のおばあちゃんの出身集落についてです。これまで、旭地区の竹平の生まれだと思っていたのですが、そうではなく、足谷の隣の入場(にゅうば)だったのです。入場だと聞いてすぐ、「それじゃ冬になれば、旭の学校には家から通えないすけ、竹平のどこかに泊めてもらいながらだろね」と訊くと、「たぶん、そうだと思います」という答えが返ってきました。母が竹平の「下」(した。屋号)から吉川区の源地区に嫁いだ人たちと仲良しだったことから考えると、その家は「下」だったのかも知れません。いまJAえちご上越の幹部として活躍している山岸さんも入場出身で、しかもKさん宅のおばあちゃんの実家だということも初めて知りました。

それだけでも驚き、うれしかったのですが、長年にわたりお世話になった直江津は五智在住だった元教員のKさん(故人)もKさん宅とは親戚でした。さらに私の友人である松之山のTさんともつながっていました。本当に世間は狭いと思いました。

T子さんは現在七十代後半です。私とは母親繋がりで、長年付き合いをさせてもらっていたのですが、今回の訪問のなかで、双方がいろんなルートでつながっていることを確認できました。

延長約二キロの儀明峠トンネルを境に行政区は区分されていて、こんなにつながっているとは……。今回は母の三回忌法要が終わったら訪ねようと思います。

「手しごと、手づくり柿崎・上越作品展」、今年も賑やか

柿崎区の浄福寺で開催された「手しごと、手づくり柿崎・上越作品展」に行ってきました。

毎回楽しみにしているこの作品展、今回もパッチワーク、竹細工など素敵な作品が並びました。コミュニティバンド・ピアスの山崎伸さんがカフオンやケーナなどの楽器を出展しているのにはびっくりしました。この人の器用さははんぱじゃないですね。随想シリーズ「春よ来い」に書かされたもらった板倉区のSさんなど、何人もの人



から声をかけていただきました。ありがとうございました。イラストはパッチワークコーナーです。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月11日(水)	9月18日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.060	0.057
高士分遣所	0.050	0.053

スイッチバックの二本木駅も紹介



6日夜のNHK「きらっと新潟」は鉄道写真家・中井精也さんのトキめき鉄道の旅でした。小さな駅を降りて、電車が走る絶景を撮る番組です。

妙高はねうまラインでは二本木駅の紹介が良かったです。地域づくりの拠点になっていて、駅の中では喫茶店が開かれています。いいですね。